

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版  
(仮称)北不動堂町ホテル計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版  
■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
				評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>	
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.0</b>	
<b>1 音環境</b>										<b>2.6</b>	
1.1 室内騒音レベル										3.0	
1.2 遮音										3.0	
1 開口部遮音性能										3.0	
2 界壁遮音性能										-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0	
1.3 吸音										1.0	
<b>2 温熱環境</b>										<b>2.6</b>	
2.1 室温制御										3.0	
1 室温										3.0	
2 外皮性能										3.0	
3 ゾーン別制御性										-	
2.2 湿度制御										1.0	
2.3 空調方式										3.0	
<b>3 光・視環境</b>										<b>3.2</b>	
3.1 昼光利用										3.0	
1 昼光率										●自然 A(全国版準用)	
2 方位別開口										3.0	
3 昼光利用設備										●自然 B(推奨内容)	
3.2 グレア対策										3.0	
1 昼光制御										●自然 B(推奨内容)	
3.3 照度										3.0	
3.4 照明制御										3.0	
<b>4 空気質環境</b>										<b>3.6</b>	
4.1 発生源対策										4.0	
1 化学汚染物質										ほぼ全面的にF☆☆☆☆および規制対象外材料の使用。	
4.2 換気										3.0	
1 換気量										3.0	
2 自然換気性能										●自然 A(全国版準用)	
3 取り入れ外気への配慮										3.0	
4.3 運用管理										5.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視										-	
2 喫煙の制御										全館禁煙とし、喫煙ルームを設置。	
<b>Q2 サービス性能</b>										<b>2.7</b>	
<b>1 機能性</b>										<b>3.1</b>	
1.1 機能性・使いやすさ										3.0	
1 広さ・収納性										-	
2 高度情報通信設備対応										3.0	
3 バリアフリー計画										●大切 D(独自基準)	
1.2 心理性・快適性										3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)										●とも C(独自加点)	
2 リフレッシュスペース										-	
3 内装計画										●自然 D(独自基準)	
1.3 維持管理										3.5	
1 維持管理に配慮した設計										4.0	
2 維持管理用機能の確保										3.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>										<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振										3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0	
2 免震・制震・制振性能										3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数										3.0	
1 躯体材料の耐用年数										●大切 A(全国版準用)	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔										3.0	

2.4 信頼性					3.0	0.20		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	1.9	1.00	2.0
3.1 空間のゆとり							1.8	0.50	
1	階高のゆとり						1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							2.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	沿道型美観地区による認定・ルーバー等による昼光制御と グレア対策。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、自然	A'(全国版準用)	庇による空間提供・路地状スペースによる中間領域の確保・防犯性への配慮。	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=084	4.6	0.20		-	4.6
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.40	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用					3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価								-	
4.1	モニタリング							-	
4.2	運用管理体制							-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護					3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水				節水コマ、節水型機器の採用。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60		-	3.3
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と内装が分別可能。内装材と設備が錯綜しない。	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70		-	
1	消火剤				-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3	冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				LCCO2排出量50.3%	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮					2.3	0.33		-	2.3
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制				1.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1	騒音				3.0	0.33		-	
2	振動				3.0	0.33		-	
3	悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40		-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制							-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる